

四日市港管理組合議会ニューズ

Yokkaichi Port Authority Assembly

第 29 号 (平成 26 年 3 月発行)

さる 12 月 19 日 (木) に平成 25 年第 4 回定例会が開会され、12 月 26 日 (木) に一般質問が行われ、議案 4 件が可決され閉会しました。

今回は、中森博文議員 (三重県議会選出)、樋口博己議員 (四日市市議会選出) の二人が四日市港港湾行政に関する質問を行い、管理組合執行部に答弁を求めました。

主な質問・答弁要旨

中森博文 議員



○ **交通網の利便性を活かして、伊賀地域に立地する企業に四日市港利用促進協議会への参加を求め、集荷の安定と拡大を図るべきと考えるが、これらの企業の四日市港利用の近々の状況と今後の集荷対策について、御所見を伺いたい。**

◎ 伊賀地域からは、四日市港が最も近い港であり、交通網も整っているため、コストメリットが大きいと考えるが、認知度の不足、大阪港と比べて航路・便数が少ない、関西圏とのつながりが強い企業が多い等の理由により、なかなか活用されていない。四日市港利用のメリットを認識していただくために、企業訪問や説明会を開催し、また荷主企業の環境貢献活動やコスト低減を支援すべく、グリーン物流促進補助事業等の活用により最近 5 年間で約 2,000TEU の貨物を四日市港に転換していただいた。今後は荷主企業の大阪本社への働きかけを強化するなど積極的な PR 活動を行い、利用促進協議会への入会についても働きかけを行っていききたい。

樋口博己 議員



○ **災害発生時に四日市港への船舶での緊急物資輸送が想定されるが、四日市港背後地域へ輸送をするために必要となる岸壁、護岸、道路、橋梁について、耐震工事等についてどのように取り組んでいくのか、お聞きしたい。**

◎ 四日市港においても災害時の緊急輸送ネットワークとして、耐震強化岸壁や緊急輸送道路が位置づけられています。耐震強化岸壁については、霞ヶ浦地区の 23 号岸壁が既に整備済みであり、四日市地区の 15 号岸壁は現在整備中で平成 26 年度に完成する予定です。耐震強化岸壁に接続する緊急輸送道路として、霞ヶ浦地区では臨港道路霞 1 号幹線の霞大橋は北橋について耐震補強済みで市街地へのルートは確保されており、四日市地区について、15 号岸壁に接続する国道 164 号線の千歳橋は、県が平成 26 年度に耐震補強工事を予定しています。また、臨港道路霞 4 号幹線の整備が平成 29 年度の完成を目指して進められています。当組合としては、15 号岸壁の整備を早期に完成させるとともに、霞 4 号幹線の早期供用に向けて国に対して働きかけていきたい。

※詳細な質問答弁等については、当組合議会ホームページ会議録をご覧ください。